

講習

10月から11月末にかけて計4回のB級公認審判更新講習会を開催しました。

近年、日本協会が主催する審判に関するクリニックは3人制のメカニクスを主体とした講習伝達が多いのですが、今年8月に2人制のメカニクスの伝達がありました。大阪高体連では2人制を用いた大会が大半であるため今回の更新講習ではこの内容をパワーポイントと資料を用いて行うことにしました。大阪高体連バスケットボール審判長の飯尾勝紀氏（S級公認）を講師として解説と質疑応答をお願いしました。

これまで大阪では特に「スペース・ウォッチング」「オールウェイズ・ムービング」を中心に指導をすすめてきました。これらの動きはこれからも大切な動きなので決して否定するものではありませんが、今回、「ボクシング・イン」の動きと選手の動きの見えやすい「審判の止まった状態での判定」を重視した講習となりました。この動きをスムーズにするためには2人の審判の協力とプレイの予測が更に必要となってきます。私たち高校の教員も練習試合を通して位置取りや判定の練習をしておく必要性を感じました。

資料として今年の8月にJBA審判部が発行した確認事項を添付しておきます。

ルールテスト

○×式の問題を解く形式でテストを実施しました。問題の中には次のようなものがありました。

「プレイヤーがショットの動作を始めてからファウルをされても、そのプレイヤーがファウルをされたあとに自らの意思でショットをすることをやめてパスをした場合は、そのファウルはショットの動作中のファウルとはみなされない。したがって、そのプレイヤーにはフリースローは与えられず、ゲームは、スロー・インで再開される」

この答えは正しいので○です。しかし、大阪の高校の公式戦でもコーチから何度か「フリースローではないのか」とアピールを受けたことがあります。このルールを覚えていなければ間違った処置をしていたかも知れません。ルールブックには全てのケースについて適応する処置が書かれているそうです。公式戦には熟読して臨みたいと感じました。

シャトルラン

年齢別にシャトルランの回数は違うというものの、辛い運動には違いありません。走る前の緊張感はかなりありました。多くの先生方は「生徒の気持ちがよくわかる」とおっしゃっていました。

へとへとになりながらも高体連所属のB級審判のほとんどの方が回数をクリアし合格となりました。受講された先生方の中には事前トレーニングで5kgも減量して臨んだ方もいらっしゃいました。多くの仲間の激励を受けながら走ることができ、仲間の大切さを知りました。

資料としてシャトルランの要項と問診票を添付しておきます。

シャトルランの再チャレンジについて

当日、体調不良等で棄権や失格になった方は、1月17日（火）芦間高校19時30分スタートで、フィットネステストを行います。合格されていない方は、審判長の飯尾先生に再チャレンジの連絡を取ってください。